

# 2013年3月期 業績概要

2013年 4月26日

アンリツ株式会社  
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754  
<http://www.anritsu.com>



**Anritsu** Discover What's Possible™

1

Financial Results FY2012  
Copyright© ANRITSU

## 注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

# 目次

---

## I . 2013年3月期 業績概要

### I -1. 事業概要

### I -2. 連結決算概要

### I -3. 2014年3月期 通期見通し

### I -4. 配当予想について

## II . 中期経営計画GLP2014 第1年次レビュー

---

# I -1. 事業概要

**計測事業**  
開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場：LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備

**産業機械事業**

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



**その他**

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) **2013年3月期 実績(連結)：947億円**

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 25%	アジア、パシフィック 30%	米州 30%	EMEA 15%
--------	----------------	--------	----------

(ノート部記載なし)

## I-2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバーとして  
計測事業が堅調に推移

セグメント	2013年3月期(4月～3月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"><li>・モバイル:LTE開発用、スマホ製造用需要が堅調</li><li>・ネットワークインフラ:無線インフラ整備の投資が堅調</li><li>・エレクトロニクス:顧客の投資抑制傾向が継続</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本:スマホ開発用・製造用の投資は上半期に集中</li><li>・アジア:スマホ製造用を軸にモバイル関連が堅調</li><li>・米州:スマホ開発・LTE開発の需要が牽引</li></ul>
産業機械	総じて堅調に推移

スマートフォン(スマホ)の普及拡大に象徴される、モバイルブロードバンドサービス分野の一層の需要拡大が、当社グループの2013年3月期(4～3月)の業績を牽引しました。とりわけ、LTE方式の開発需要、スマートフォンやタブレットの開発、製造の各用途市場、周波数再編や接続品質改善の無線ネットワークの整備化投資が成長ドライバーです。

計測市場の概況は次のとおりです。

(1) 第4世代の新たな超高速モバイル通信方式である、LTE方式の研究開発用の計測システムやテストは、チップセット・ベンダーやLTE搭載のスマホの開発ベンダーを中心に堅調な需要が見られました。

(2) 携帯端末の総出荷台数に占めるスマートフォンの割合は、さらに増加しています。それは、新しいモデルの開発競争、販売競争を促す結果となり、携帯端末製造市場における順調な設備投資として表れました。しかしながらスマホの販売競争が激化するにつれて、個々の携帯端末ベンダーや中国EMSなどの設備投資は、経営状況、新モデルの投入数、販売計画と進捗状況、在庫状況などを反映して一様ではなく、需要も変動する傾向にあります。

(3) 無線ネットワークのインフラ市場では、日本、北米市場で、接続品質の向上を目的とした基地局ネットワークの増強や周波数再編関連の投資が堅調な動きとなっています。

地域別では、

(1) 日本市場では、スマホの新モデルの投入で巻き返しを図る日本の携帯端末ベンダーによる積極的な投資が上半期に集中してありましたが、下半期以降は急激に縮小しました。

(2) アジア市場では、引き続きスマホの製造用テストを軸に開発用も含めて堅調でした。

(3) 北米市場ではモバイル関連の開発用途、品質保証、ネットワークの整備への投資が順調に推移しました。

産業機械事業は、総じて国内外とも堅調に推移しました。

その他事業の情報通信事業などは、前年度に比べ収益が改善しました。

## I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 増収増益を達成、過去最高の当期利益を更新

(単位:億円)

	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
受注高	904	960	56	6%
売上高	936	947	11	1%
営業利益	140	158	18	13%
税引前利益	131	162	31	24%
当期利益	80	139	59	75%
当期包括利益	71	164	93	130%
フリーキャッシュフロー	140	67	△73	△52%

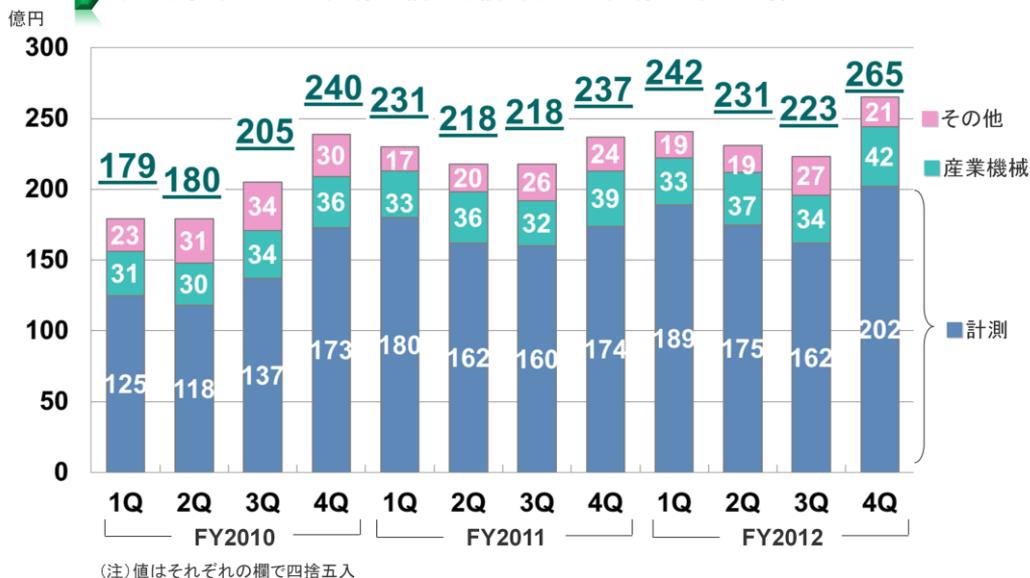
(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

受注高は、前期比6%増加の960億円でした。

売上高は、前期比1%増加の947億円でした。前期並みの売上高水準で、営業利益は前期比13%増加の158億円を計上しました。なお為替レートの高円修正(円安)に伴う為替差益が金融費用を上回り、税引前利益は162億円となりました。当期利益は139億円と過去最高益を更新する大幅な増益となりました。当期利益が大幅に改善している理由は、順調な本業の収益力を背景に回収可能性の見直しにより、繰延税金資産を積み増したことが主な要因です。

## I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

▶ 計測事業: 10四半期連続で、前年同四半期に対して増加



Anritsu Discover What's Possible™

7

Financial Results FY2012  
Copyright © ANRITSU

計測事業の通期の受注高は、前期比8%増加の727億円でした。産業機械事業の受注高は、前期比5%増加の146億円でした。

四半期単位の計測事業の受注高は、2010年度・第3四半期から10四半期連続して、前年同四半期を上回って推移し、この3会計年度で最高の受注高202億円を達成しました。

## I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 計測事業: 営業利益率21.1%

(単位: 億円)

		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
計測	売上高	706	712	6	1%
	営業利益	138	150	12	9%
産業機械	売上高	142	144	2	2%
	営業利益	6	8	2	45%
その他 (含: 内部消去)	売上高	89	90	1	2%
	営業利益	△4	△1	3	-
合計	売上高	936	947	11	1%
	営業利益	140	158	18	13%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

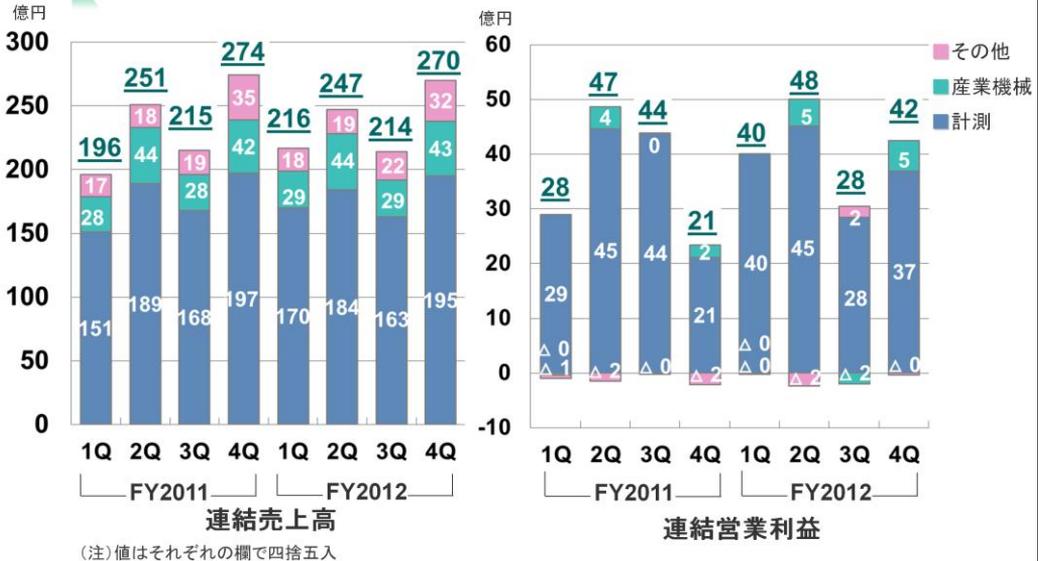
計測事業は、前期比1%の増収となる売上高712億円を達成し、営業利益150億円、営業利益率21.1%の成果となりました。

産業機械事業は、売上高が前期並みの144億円、営業利益は45%増加の8億円、営業利益率5.7%でした。

その他事業では、情報通信事業が経営構造改革の成果により大幅に採算性を改善しました。

## I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 通期に占める第4四半期の割合: 売上高29%、営業利益27%



Anritsu Discover What's Possible™

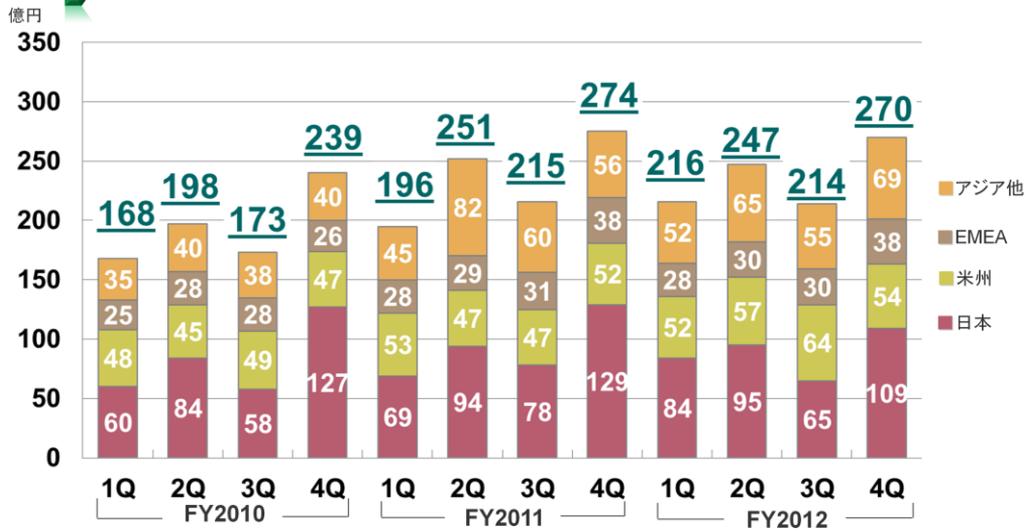
9

Financial Results FY2012  
Copyright © ANRITSU

当第1、第2、第3、第4四半期の連結営業利益率はそれぞれ18.5%、19.3%、13.3%、15.6%、計測事業の営業利益率は、それぞれ23.6%、24.5%、17.4%、18.9%でした。四半期単位の利益率は、市場ミックス、事業ミックス、プロダクトミックス、季節変動などにより変動します。なお、第4四半期の2012年度通期に占める割合は、売上高で29%、営業利益で27%でした。

## I-2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

▶ アジア、米州: モバイル関連の投資が継続



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Anritsu Discover What's Possible™

10

Financial Results FY2012  
Copyright © ANRITSU

第4四半期においても、米州市場でモバイル関連の開発需要が引き続いて伸長しました。一方、日本市場は、有力なプレイヤーのスマホ製造サイトの中国移転や開発体制縮小の影響などもあり、設備投資が大幅に減少しました。欧州市場は前年同期並みでした。アジア市場ではスマホ製造市場で動きが見られるなど、前年同期比で増加しました。

なお通期(2012/4~2013/3)を通じての特徴は下記のとおりです。

通期の海外売上高の占有率は、前期の61%から63%に増加しました。

(1) 米州は、北米の有力なプレイヤー、オペレーターによるLTE関連市場への開発投資が活発であるとともに、無線基地局の建設保守市場への投資も堅調に推移しています。

(2) EMEAは、有力な携帯端末ベンダーやチップセット・ベンダーなどの人員削減や開発拠点、製造サイトの閉鎖など厳しい経済環境が続く状況にもかかわらず、前期並みの水準を確保しています。

(3) アジア市場は、四半期単位では大きな変動はありましたが、総じて携帯端末ベンダーの積極的な設備投資を軸に順調に推移しました。

(4) 日本市場は、携帯端末ベンダーのスマートフォンの新モデルの投入やオペレーターの無線ネットワーク整備への投資が、上半期にありましたが、下半期に入って設備投資全般について抑制傾向が見られました。

## I-2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2012 (累計)

①営業CF: 118億円

②投資CF: △ 50億円

③財務CF: △ 100億円

**フリーキャッシュフロー**

(①+②): 67億円

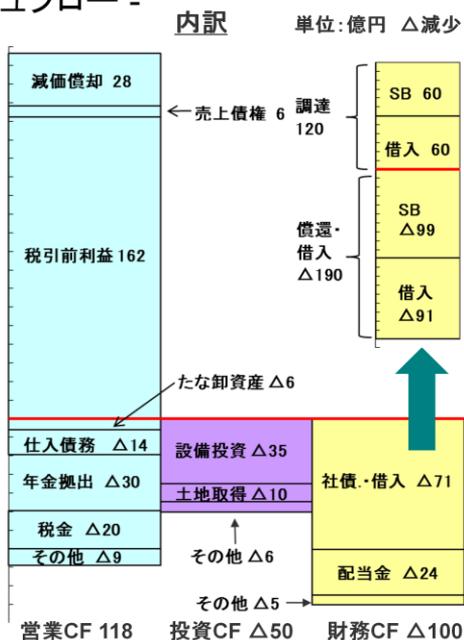
**現金同等物期末残高**

377億円

**有利子負債高**

194億円

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、税引前利益の増加と運転資本の改善に努めた結果、118億円の資金獲得となり、営業キャッシュフロー・マージンは12.4%となりました。

投資キャッシュフローの設備投資45億円は、計測事業の強化をはじめとする設備投資と、福島県郡山市における新工場建設のための土地取得10億円が主なものです。なお、新工場の稼働は、2013年7月を予定しています。

その結果、フリー・キャッシュフローは67億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローのうち資金調達は、純額で71億円のマイナスとなりました。その内訳は、普通社債60億円の発行と金融機関からの長期借入れ60億円の合計120億円の資金調達に対して、社債99億円の償還および借入れ返済91億円、合わせて有利子負債190億円の圧縮との相殺となります。

12月に実施した中間配当(1株あたり7円50銭)は総額10億円となり、前年度分の期末配当(1株あたり10円)と合わせて、合計24億円の配当金総額となりました。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より19億円減少の377億円となりました。

## I -3. 2014年3月期 通期見通し(連結)

(単位：億円)

		2013/3期	2014/3期		
		当期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高		947	1,020	73	8%
営業利益		158	170	12	8%
税引前利益		162	165	3	2%
当期利益		139	115	△24	△18%
計測	売上高	712	770	58	8%
	営業利益	150	155	5	3%
産業機械	売上高	144	155	11	7%
	営業利益	8	10	2	21%
その他	売上高	90	95	5	5%
	営業利益	△1	5	6	-

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=90円  
1ユーロ=120円

2013年度の通期業績の見通しは、以下のとおりです。

アンリツグループの業績を牽引しているモバイル計測事業を取り巻く環境は、LTE方式の開発と普及に係わる投資の一層の拡大、スマートフォン加入者の急速な拡大など、当社業績を牽引している成長ドライバーがより鮮明になっています。一方、顧客別の投資姿勢とその動向は目まぐるしく変化しています。

とりわけ日本市場では、スマホベンダーが軒並み、人員削減、給料カット、設備投資縮小などの施策を継続しており、大幅な減収を織り込まざるを得ない状況です。一方で、計測事業、産業機械事業とも、海外市場は引き続き投資拡大が見込まれます。さらに円高修正による増収効果も期待されます。その結果、計測事業は海外売上高の伸長を織り込み、売上高は前期比8%増収の770億円、営業利益は営業利益率20%の155億円を目標とします。産業機械事業も海外での伸長を見込み、売上高は7%増収の155億円、営業利益10億円を見込みます。

その結果、アンリツグループ連結としては、中期経営計画GLP2014の計画線に沿った水準となる、売上高は前期比8%増加の1,020億円、営業利益は前期比8%増加の170億円を見込みます。2013年度の実効税率は約30%程度を見込むため、当期利益は115億円が計画値となります。

## I -4. 配当予想について

### 年間配当

**20円(うち、中間配当 10円)**

【参考 2013年3月期 年間配当20円(期末配当 12.5円)】

### 配当方針

株主の皆さまに対する利益還元策は、連結業績に応じた利益配分を基本方針としております。基本体系は連結当期利益の水準に応じて親会社所有者帰属持分配当率(DOE)の目標範囲が決まるとともに、企業価値を向上させる視点から諸般の事情を総合的に考慮して剰余金の配当を行うこととしております。

2013年度の当期利益の計画値115億円は、2012年度の139億円より24億円減少します。しかしながら、2013年度の当期利益は、2012年度固有の税金費用の減少に係わる要素を考慮すれば、2012年度と同じ水準にあることから、年間配当金は同額の20円とします。

なお、当社は、株主、投資家の皆様にとって投資しやすい環境を整えることで、当社株式の流動性の向上、および投資家層の一層の拡大に努めることを目的に、2013年4月1日の新年度から単元株式数の変更を行い、1000株から100株としています。

## Ⅱ. 中期経営計画GLP2014 第1年次レビュー

## Ⅱ -1. 中期経営計画GLP2014 第1年次レビュー



国際会計基準(IFRS)

### GLP2014

指標		FY2012 (GLP第1年次計画)	FY2012 (実績)	FY2013 (計画)	FY2014 (GLP計画)
売上高		945 億円	947 億円	1,020 億円	1,100 億円
営業利益		155 億円	158 億円	170 億円	190 億円
当期利益		100 億円	139 億円*1	115 億円	130 億円
ROE		20 %	25 %	17 %	≥20 %*2
ACE*3		70 億円	94億円	75 億円	90 億円
計測	売上高	700 億円	712 億円	770 億円	800 億円
	営業利益	140 億円	150 億円	155 億円	160 億円
産業 機械	売上高	150 億円	144 億円	155 億円	180 億円
	営業利益	10 億円	8 億円	10 億円	15 億円

\*1: 繰延税金資産回収可能性の見直しにより、税金費用が減少

\*2: スライド19参照

\*3: ACE(Anritsu Capital-cost Evaluation): 税引後営業利益-資本コスト

2020  
VISION

Anritsu Discover What's Possible™

15

Copyright © ANRITSU

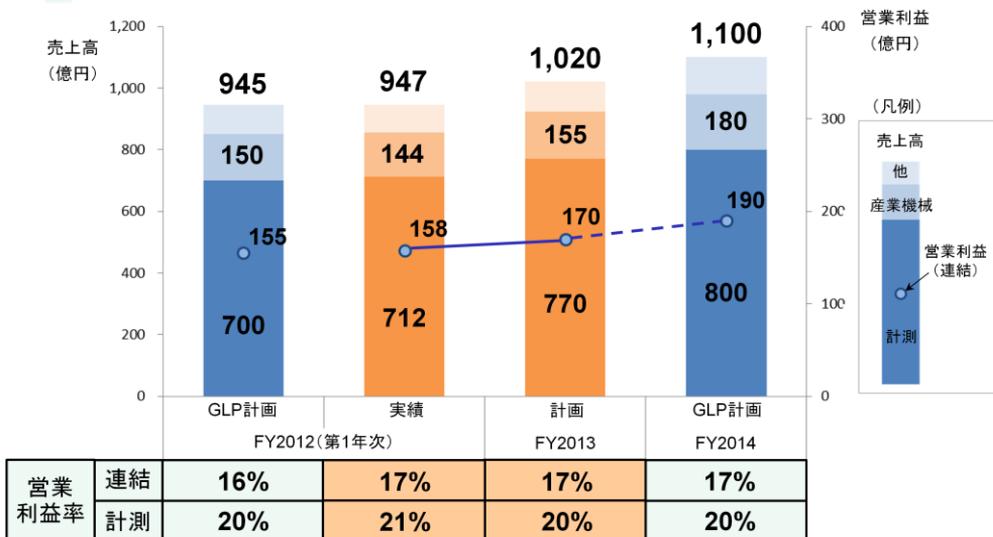
3ヶ年の中期経営計画GLP2014の進捗状況について説明します。

スライドの2012年度の(GLP計画)と(実績)の比較からも明らかなおり、主力の計測事業の目標達成を牽引力として、連結全体としてもそれぞれの重要な経営指標をすべて達成することができました。

## II -2. 中期経営計画GLP2014 第1年次レビュー

▶ 連結：第1年次の計画を達成

国際会計基準(IFRS)



3ヶ年の中期経営計画GLP2014の進捗状況を売上高、営業利益のグラフで示しました。売上高、営業利益の計画値だけではなく、営業利益率についても、計測事業および連結としても目標を達成することができました。

## II -3. 中期経営計画GLP2014 第1年次レビュー

### ▶ 計測事業

	事業環境	達成に向けた主な取組み
計測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LTE開発のスピードが加速               <ul style="list-style-type: none"> <li>－TDD-LTE,LTE-A開発が本格化</li> <li>－3G/LTEスマホ生産拡大が継続</li> </ul> </li> <li>・社会インフラとしてのモバイルの応用分野拡大               <ul style="list-style-type: none"> <li>－IT企業などのモバイルシフト</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モバイル分野の開発投資強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>－LTE開発加速への対応</li> <li>－スマホ開発環境向けの最適ソリューション投入</li> </ul> </li> <li>・グローバルサポート体制の強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>－グローバルアカウントのサポート強化</li> <li>－新規・潜在顧客の獲得</li> </ul> </li> </ul> <p>ユニバーサルワイヤレステストセット (3G/LTE/Wi-Fi/Bluetooth等に対応)</p>



計測事業の事業環境をレビューするとともに、GLP2014の経営目標を達成するための主な取り組みについて説明します。

計測事業の事業環境は、成長ドライバーであるLTE方式の開発が加速する一方、加入者の消費動向から、ますますスマホの普及およびLTE搭載のスマホの普及が加速する見通しです。

またモバイル・ブロードバンド・サービスは、スマホなどの新端末の開発競争のレベルにとどまるのではなく、社会インフラとして大きく成長することが期待されます。当社としては、このような成長機会を確実に獲得するために、グローバルなマーケットリーダーとしての信頼と評価を得られることを目指して、開発、顧客サポートを軸にさまざまな戦略投資を効率よく行ってまいります。

## II -4. 中期経営計画GLP2014 第1年次レビュー

### ▶ 産業機械事業

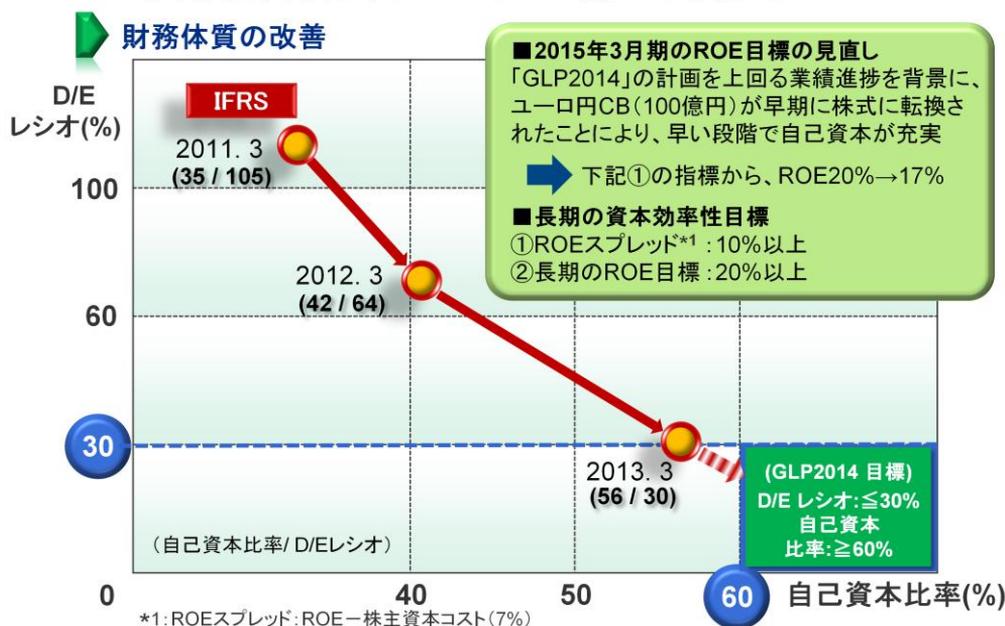
	事業環境	達成に向けた主な取組み
産業機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本市場の需要は安定的</li> <li>・北米での食肉検査需要増大</li> <li>・アジア・新興国における品質検査市場拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル顧客との関係強化</li> <li>・地産地消体制の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>ータイ工場の生産拡充</li> <li>ー中国(上海)に工場開設 (FY2013第2四半期 生産開始予定)</li> </ul> </li> </ul>
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>タイ工場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上海工場</p> </div> </div>

産業機械事業の事業環境をレビューするとともに、GLP2014の経営目標を達成するための主な取組みについて説明します。

産業機械事業の事業環境と戦略は、マーケットリーダーの位置にある日本市場で安定的な収益構造を維持するとともに、成長する海外市場でのマーケットシェア拡大です。ついては、海外市場の販売体制の整備を行うとともに、競争力を強化するために積極的な地産地消の海外現地生産体制を拡充していきます。

2013年度は、タイ工場に続いてメガマーケットへの成長が期待される中国での現地生産体制の構築に取り組む計画です。グローバルな顧客のニーズを確実に取り込む、スピーディな製造とサポートの地産地消体制を拡充し、成長する新興国市場での収益を改善、拡大していきます。

## II -5. 中期経営計画GLP2014 第1年次レビュー



財務戦略の指針は、『「利益ある持続的成長」に基づく事業投資ポートフォリオ計画に対して、投資するための財務安定性を増進することと、投資リターンを向上させることを通じて、企業価値を最大化する』ことです。

財務体質の改善目標として、GLP2014では、「自己資本比率 60%以上、有利子負債比率D/E 0.3以下」を目標としています。また資本コストからのリターンを向上させるための重要経営指標は、ACE (Anritsu Capital cost Evaluation = 税引き後営業利益 - 資本コスト)とROEです。本業の収益性の改善が進んだことと、キャッシュフロー経営のさまざまな取組みにより、これらの経営指標は順調に向上しています。

ROEについては、2015年3月期の目標を20%から17%に変更します。この変更は、2015年9月償還予定のユーロ円CB(100億円)の転換が前倒しで完了したこと、円高修正によって為替換算調整勘定がプラスに転じたことなどにより、純資産が想定以上に厚くなったことを受けたものです。ROE17%の目標は、ROEスプレッド(=ROE - 株主資本コスト7%)を10%以上、すなわち株主、投資家の皆様の期待収益率を10%以上と設定したことによります。なおROEは、長期目標として20%以上を目指すことに変わりはありません。

## II-6. 買収防衛策の非継続と企業価値の向上

6月26日定時株主総会以後、満了となる  
「当社株式の大規模買付け行為に関する対応策  
(買収防衛策)」を継続しないことを決議\*1  
しました。



Anritsu Discover What's Possible™

20

Financial Results FY2012  
Copyright © ANRITSU

当社は、前回、買収防衛策(本プラン)を更新した平成22年に中期経営計画「GLP2012」をスタートさせ、この目標を前倒して達成することができました。これを受けて、当社は、より長期的な視点で企業価値の向上に取り組むために、10年スパンの時間軸で取り組む「ANRITSU 2020 VISION」及びそのマイルストーンとなる中期経営計画「GLP2014」を新たに策定し、その実現に向けて取り組んでいるところです。このような企業価値向上を核とした経営を進めることは、当社の企業価値及び株主共同の利益を著しく損なう大規模買付者が現れる危険性を低減する方向に導くものと考えております。

当社は、本プランが有効期間満了を迎えるにあたり、本プランの取扱いについて、当社を取巻く様々な状況を踏まえ慎重に検討してまいりました。その結果、「ANRITSU 2020 VISION」及び中期経営計画の実現、並びにコーポレート・ガバナンスの整備・強化によって企業価値の向上に継続して取り組むこと、加えて、株主の皆様への利益還元を充実させ、株主・投資家の皆様との対話の一層の充実をはかることにより、当社の経営方針を十分にご理解いただき、当社の企業価値を適正に評価していただくことが、現時点において当社が最優先で取り組むべきことであると判断し、本プランを継続しないことを決議しました。

なお、本プランの有効期間満了後も、当社株式の大規模買付行為が行われた場合には、株主の皆様のご判断に資するよう、本プランと同様に大規模買付者への情報提供要求など積極的な情報収集と適切な情報開示に努めるとともに、当社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上をはかるため、必要に応じ、法令及び定款によって許容される限度において、適切な措置を講ずるものいたします。(東証開示資料より)



東日本大震災から、すでに2年余が経過しました。震災からの復旧・復興は、多くの課題を抱えつつも、着実に前進しています。アンリツグループも、東北地方に拠点を構えるものとして、本業面のみならず、積極的に復興を支援し、社会的責任を果たしていく所存です。その一環として、本年7月には福島県郡山市で新しい工場が稼働します。最新の工場は、グローバルマーケットリーダーを目指すアンリツグループの中核として、世界のお客様にアンリツらしい価値をお届けする拠点として育てていく所存です。

株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2013年3月期の業績報告とします。